

公認心理師の職責

[講義] 第1学年 前期 必修 2単位

《担当者名》 冨家 直明 (tomie@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

国家資格としての公認心理師として求められる職業的責務を学び、ふさわしい資質や能力を身につけるように自己研鑽を積みながら実践に励むことができることを目指した科目である。主体的、対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の体験を通して、公認心理師の法的位置付け、法的義務と倫理、期待される社会的役割、安全の確保、情報の適切な取り扱い、保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働分野における公認心理師の業務、自己発見や課題解決能力、生涯学習への準備、多職種・地域連携について学び、将来の公認心理師に必要なコンピテンシーとリテラシーを身につける。

【学修目標】

公認心理師の法的位置付け、法的義務、倫理を知る。
情報の適切な取り扱いを知る。
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野における公認心理師の業務を知る。
公認心理師として生涯にわたって、知識・態度・技能を研鑽するために必要な課題の発見・解決方法、自己研鑽の方法について理解する。
公認心理師としての多職種連携の意義と課題について学び、地域連携の重要性・あり方について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	公認心理師の役割	公認心理師法を概観しつつ、公認心理師の社会的役割の理解を図る。心理的アセスメント、心理学的支援、関係者への支援、心の健康教育の4つの業務を知る。公認心理師資格の取得に至るプロセスを知る。	冨家 直明
2	公認心理師に必要なコンピテンシー	公認心理師のコンピテンシーモデル、反省的实践、科学者実践家モデルなどを理解する。	冨家 直明
3	心理支援の専門職になるために	心理支援と自己理解、支援動機、価値観の多様性、支援者のメンタルヘルスなどを理解する。	冨家 直明
4	心理支援の専門職として働くために	公認心理師としての専門職教育、公認心理師の実践的な学び、公認心理師の生涯教育、心理職のキャリア発達などを理解する。	冨家 直明
5	公認心理師の法的義務と倫理	公認心理師の責任と法的義務を把握する。名称独占、信用失墜の禁止、秘密保持義務、関係者との連携、主治医の指示、資格向上の責務について理解する。公認心理師の倫理について考える。	冨家 直明
6	支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る	安全確保、価値に基づく医療(Value-Based Practice: VBP)、自己決定権、業務としての心理支援、リスクアセスメントと危機介入、リファーが必要な時の動き方などを知る。	冨家 直明
7	情報の適切な取り扱い	情報の取り扱い、秘密保持義務、適切な情報管理、個人情報保護、秘密保持と情報共有などについて理解する。	冨家 直明
8	チームや地域で連携して働く	公認心理師に求められる連携について考える。多職種連携実践(IPW)、多職種連携教育(IPE) 価値に基づく医療(Value-Based Practice: VBP)を知る。地域架橋的能力の育成に必要な事柄を理解する。医療・福祉・教育・司法・産業の場面で多職種協働ができるために必要な資質や能力について理解する。	冨家 直明
9	保健医療分野で働く	保健医療分野における公認心理師の職場の紹介と、保健医療分野において求められる役割、知識、スキルを理解する。	冨家 直明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	福祉分野で働く	高齢者、児童福祉領域など多様な福祉の職場の紹介と、福祉分野において求められる役割、知識、スキルを理解する。	富家 直明
11	教育分野で働く	スクールカウンセラーの職場の紹介と教育現場で求められている公認心理師の役割を理解する。	富家 直明
12	司法犯罪分野で働く	司法犯罪分野の職場の紹介と公認心理師の役割を理解する。	富家 直明
13	産業労働分野で働く	産業労働分野における主な職場の紹介と、公認心理師の役割を理解する。	富家 直明
14	公認心理師国家試験を考える	公認心理師国家試験の試験問題を参照し、学修到達度の自己点検を行う。	富家 直明
15	公認心理師国家試験を考える	これまでの学びの内容を振り返り、学修到達度の自己点検を行う。	富家 直明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート30%、定期試験70%で評価する。評価の観点は、本授業に関わる、知識・理解、獲得した知識等を活用し、新たな課題に適用し課題を解決する能力、態度・志向性、専門職業人としての倫理観を含む。また、学修成果や態度を振り返るためにルーブリック評価を実施する回がある。

【教科書】

公認心理師スタンダードテキストシリーズ「公認心理師の職責」（ミネルヴァ書房）

【参考書】

誠信 心理学辞典 [新版]（誠信書房）

【備考】

講義内容は日本心理学会、公認心理師養成大学教員連絡協議会が策定した公認心理師大学カリキュラム標準シラバスに従う。

【学修の準備】

< 授業時間外学修 >

予習（60分～90分）：各回において指定された重要項目について、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。

復習（30分～60分）：学習内容を復習する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。

DP2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

富家直明（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としての臨床・研究・社会貢献活動の成果を反映させた講義内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している